

「食べることは生きること」

会長 奥住方彦

令和6年度も残すところあと少しとなりました。今年も皆様のご協力大変ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。

さて、毎年異常気象と叫ばれている中、昨年の東京の桜の開花は3月29日で一昨年より15日遅くなりました。一昨年が異常に早かったので、ある意味昨年が平年並みと言えるかもしれません。しかしその後の気温上昇は特別でした。我が家では、ぶどうを栽培しているのですが、開花がほぼ一昨年と同じだったのです。ぶどうは桜の花が散ってから徐々に発芽していきますので4月、5月の気温の影響を大きく受けます。昨年は桜の開花が遅かったので、ぶどうの開花も遅くなると思っていたのですが、予想と大きくずれました。夏は一昨年と同様異常な猛暑でした。晩生梨の新高が2年続きでほぼ全滅となってしまいました。異常な暑さの影響で全国的に同じような状況です。植物は生育環境の変化に敏感に反応しています。今までと同じようにできることが、当たり前ではなくなってきました。

日野市では地場農作物を給食食材として、積極的に取り入れています。市内でいつ、どのような野菜、果物が獲れるのか校外学習や食育を通して学習し、日野市の農作物に理解を深めるとともに、大切な食材を無駄にすることなくいっぱい食べ、大きく成長して欲しいと思います。「食べることは生きること」です。

【安全・安心部】 目に見える安全安心の一年に

新年あけましておめでとうございます。昨年は地域の皆様並びに学校関係の皆様にご大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い致します。

新しい年を迎え、新学期が始まりました。正門の前で子供たちの登校を見守り、昨年と変わらず明るく元気に登校する姿を見て本当に嬉しく思います。

恒例のじゃんけん挨拶も元気に明るく沢山の子供たちと交わすことができ、今年の正門スタートも寒さを吹き飛ばすくらい温かい気持ちに包まれ、「子供たちと地域を守るぞ！」と決意を新たにしました。

昨年は、東光寺小学校直近での不審者の出没もあり、皆様には多大なご心配もお掛けしましたが、地域の皆様のご協力を得ながら早期に解決することができました。本当にありがとうございました。

安全安心部では、今年も登下校の見守りをはじめ、各種行事にも積極的に参加し、子供たち、学校、地域の安全確保に努めて参ります。また、昨年同様に制服でのパトロールを実施し、目に見える形で地域の皆様にご安心して生活をしていただけるよう努力して参ります。

今年も一年、安全安心部をどうぞよろしくお願い致します。

(平柳 篤)

【学習部】 11月9日（土）運動会

「朝から来てね、応援合戦あるから！」と運動会の前日の8日、夕方、児童館の閉館時間に高学年男子が誘ってくれました。「運動会見に行くね」と声をかけると、「え～、来るの～」と言う子が多いと思っていたのですが、「見てね、来てね」と何人にも言われました。その勢いの良さに、今年は子供たちの気合いが違うと感じました。

当日、日野市内で11月に運動会を実施するのは2校のみとのことでしたが、「この日で正解！」と言いたくなるような素晴らしい天気と気温。「先日まで雨予報でしたが、皆さんの行いがいいのですね！」と校長先生の満面の笑みが眩しかったです。

3年生の80m走が速いと思ったのですが、4年生になるとさらに速い。競技前後の子供たちや係の子、そして先生方も、本当にテキパキと動くと感じました。海外の日本人会が東南アジアで運動会をした時、日本とのギャップを感じたとありました。徒競走では1位と2位の子は最後まで走りますが、3位以降の子は諦めて途中で歩き出し、中にはゴールをせずに自分の座席に戻ってしまう子もいたそうです。日本の子は、最後まで頑張っているのが当たり前です。でも、子供が一生懸命走る姿はいつ見ても感動的です。

1・2年生の玉入れでは同点もあり、3・4年生の大玉は運ぶという新しい姿に驚きました。5・6年生の騎馬戦も1対1なので、一人一人の活躍が見られて良かったです。

圧巻はやはり6年生の「The Best」でした。フラッグを持って交差するところから、何が始まるかドキドキして見ました。子供たちの真剣な表情、「やり切るぞ」という気持ちが伝わり、終わった時には、席にいた周りの大人たちから「わぁ、」と思わず歓声があがりました。本当に素敵な演舞でした。目頭が熱くなる思いをさせてもらいました。東光寺小学校の子供たち、先生方、それを支える多くの保護者の皆様、本当に素敵な運動会を見る事ができました。ありがとうございました。（佐々木 哲）

【環境部】 ～校庭の芝生化について～

東京都は、教育環境の一層の充実のため、都内全公立小中学校の校庭等の芝生化を推進してきました。学校に芝生のスペースを設置することで、児童・生徒の日常的な運動量が増加し、たくましく健康な体を育むことができるだけでなく、理科教育・環境教育面での体験的な学びの機会が増加します。また、芝生の活用と維持管理を通じて、地域と学校とのきずなが深まり、地域の力を取り込んだ学校の活性化につながります。芝生の維持管理は一部の関係者のみではとても対応出来るものではありません。ただ、学校に関わる皆さまの少しの力が結集すれば維持管理は全く問題なく可能なのです。

1年に1回でも芝刈りに参加してもらうだけで十分です。引き続きご協力お願い致します。

（久松 秀樹）